

学習指導センターだより

第6号〔令和8年9月24日（木）〕

☎949-6680 南魚沼市六日町 865 南魚沼市民会館2F 南魚沼市学習指導センター

☎:025(773)6702 Fax:025(773)6703 Eメール:mgakusen@minamiuonuma.ed.jp

ホームページ URL: <https://www.minamiuonuma.ed.jp/1570003> 南魚沼市学習指導センターで検索



名作と出会う秋 ― 子どもの読みを育む授業づくり

9月になり、だんだん過ごしやすいく気候になってきました。秋と言えば、スポーツの秋、食欲の秋、そして読書の秋です。この時期、小学校の国語では定番ともいえる文学教材が次々と登場します。「モチモチの木」「ごんぎつね」「注文の多い料理店」「大造じいさんとがん」「海の命」―教師であれば、誰もが一度は授業で扱ったり耳にしたりしたことのある物語ばかりではないでしょうか。



しかし、子どもたちにとっては、これが人生で初めての出会いです。初めて物語に触れる中で、時には「誤読」をしてしまうこともあります。私たちは、そうした子どもたちの「誤読」をどのように受け止め、指導につなげていけばよいのでしょうか。

当センターの講座でも講師を務めていただいている富山国際大学准教授の岩崎直哉先生は、この「誤読」を以下の5つに類型化されています。

- ① 単純な読み違い・読み落とし型（本文の情報を正確に捉えられていない誤読）
- ② 物語コードの無理解型（物語特有の約束事や語りの仕組みを理解していない誤読）
- ③ 背景知識の不足・誤認型（言葉や文化・生活経験の不足から生じる誤読）
- ④ 根拠のない補充・拡大型（本文にない情報を過剰に付け加える誤読）
- ⑤ 単純な教訓譚^{たん}への還元型（物語の複雑さを安易な善悪や教訓に回収してしまう誤読）

岩崎先生は、これらの誤読への対応として次のように示されています。

①や②については、本文の表記を確かめ、実際に書かれていることを確認させること。③については、必要な知識をしっかりと教える（確認する）ことが重要です。これは、当センターがRS（リーディングスキル）ガイドで提示している「言葉の意味を知る（具体例同定）」の学習とも重なる、極めて重要なプロセスです。

また、④の拡大解釈に対しては「根拠」を徹底して問い、本文から客観的に読み取れるか否かを確かめさせます。⑤については、多面的な読みを学級全体で交流させることで自分の読みを相対化させ、誤読を単に否定するのではなく「その読みだけでは捉えきれない作品の価値」に気付かせることが大切だとしています。

「誤読」に限らず、子どもたちは学びの過程でさまざまな「間違い」をします。私たち教師は、それらを単なる「失敗」として片付けるのではなく、成長への貴重なステップ（学びの過程）として受け止め、より豊かな学びへと高めていく努力が求められているのではないのでしょうか。

（参考：明治図書『国語教育』2026年10月号 特集「子どもの『間違い』の受け止め方・生かし方」）

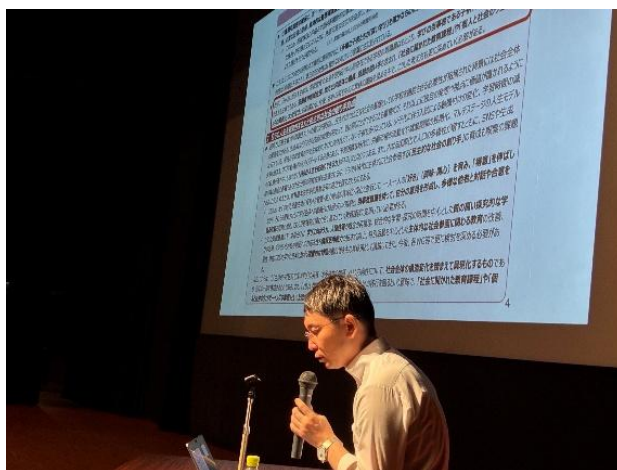
（文責：高橋 圭祐）

令和8年度 教員全体研修

「聴き手を育てる授業づくり」

8月20日（木）、令和8年度 教員全体研修として教育講演会を行いました。市内の学校より350名程の多くの先生方が参加しました。

東京大学准教授の一柳 智紀 様をお迎えし、「聴き手を育てる授業づくり〈一人ひとりの学びを保障するために〉」をテーマにご講演いただきました。「主体的で対話的で深い学びを実現するためには、『話し手』の技量や発表の仕方に着目するのではなく、対話の土台となる『聴き手』を育てることが不可欠である」というお話から、対話する機会をつくることの大切さを実感しました。



本研修に参加した先生方からは、以下のような感想をいただきました。

「発表者よりも聴き手に注目した声かけ、問い返し、そしてモデルとしての教師の聴き方が重要だということが分かりました。子どもに使ってほしいと思ったことは、まず教師が率先して使うということを中心にとどめて授業に臨みたいと思います。」（モデルとしての教師の聴き方と声かけ）

「『自分で考える＝一人で考える』ことではないということが印象に残りました。友達の意見を聞くことで発問の意味を理解し、自分の考えをもつことができる生徒もいます。今後の授業では、ただ一人で考える時間を設けるのではなく、他者との関わりも生かしながら思考する時間を工夫したいです。」（「自分で考える」ことの意味の問い直し）

「ご講演の中のヒロシさんのような『探索的対話』、困っていたり自信がなかったりする子どもの言葉を引き出し、みんなで聴くというやり方を伺うことができとても良かったです。『授業の中に一人一人の居場所があるか』『分からないということは一瞬でも分かってほしい』というお言葉がとても心に残りました。」（授業を介した居場所づくり）

「分かった人、教えてくれる？」から「困っている人、聴かせてくれる？」へ声かけを一つ変えてみる。子どもの話を途中で急かさせず、最後までじっくり聴いてみる。机の配置や課題の「余白」を意識してみる。このように明日から試せるヒントをいっぱい聴かせていただけた研修であったと感じています。

これからの時代に求められる「子どもが問い、子どもが応える授業」の実現には、教師自身の子どもの声に耳を傾ける姿勢が肝心です。子どもが中心の授業のあり方について、当センターとしても先生方とともに考えていければ幸いです。2学期からの先生方の実践を応援しています。



（文責：高山 史）

● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

期 日	コード	研 修 講 座	会 場
10 月 7 日(水) 14:30～	M02	《人権教育、同和教育》 部落問題の現状を考える	オンライン
10 月 9 日(金) 18:30～	R24	《理科》 【野外研修】 星空観察会	塩沢小学校
10 月 14 日(水) 13:45～	S04	《算数・数学》 授業公開講座Ⅳ 〈中学校〉	六日町中学校
10 月 14 日(水) 15:40～		《国語》 物語文 教材研究〈小学校〉④ 1年生「おとうとねずみチロ」(11月教材)	オンライン
10 月 20 日(火) 13:40～	K03	《国語》 授業公開講座Ⅲ 〈中学校2年〉 郡市教振中学校国語部授業公開	八海中学校
10 月 28 日(水) 15:40～		《国語》 物語文 教材研究〈小学校〉⑤ 6年生「海の命」(11月教材)	オンライン



期 日	学校名（教科等）	期 日	学校名（教科等）
10 月 2 日(金)	湯沢小(国)、浦佐小(算)	10 月 21 日(水)	塩沢小(算)、 上田小(理：クラブ)
10 月 5 日(月)	城内小(算)		
10 月 7 日(水)	上田小(理：クラブ)	10 月 22 日(木)	後山小(理：クラブ)
10 月 8 日(木)	北辰小(国)	10 月 23 日(金)	五十沢小(理：地層観察)
10 月 9 日(金)	大和中(国)、薮神小(算)	10 月 26 日(月)	城内小(国)
10 月 14 日(水)	六日町中(数)	10 月 27 日(火)	五十沢小(国)、上田小(算)
10 月 16 日(金)	大崎小(外)	10 月 28 日(水)	栃窪小(算) 大崎小(理：クラブ)
10 月 20 日(火)	八海中(国)		